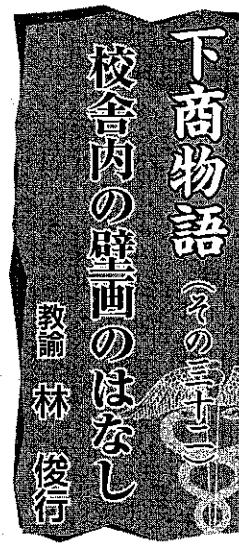


平成27年7月17日(金)発行

現在の教壇棟（昭和五十七年九月）・管理棟（昭和五十九年四月）がそれぞれ完成して、昭和五十九年の十月に举行された創立百周年を盛大に祝つたのがつい先日、のように思い出されます。今回は、その校舎内の至る所に立派な壁画を見受けますが、それについて紹介したいと思います。

まずは、管理棟の正面玄関フロアにある壁画ですが、「下商百一年の歩み」として、当時の美術教師の岸勤先生によつて制作されました。向かって左から右へと見るわけですが、創立期（明治十七年）から百周年期（昭和五十九年）まで経余曲折あつた本校の歩んだ道のりを商業神ヘルメスと創立期の理想と進取の気風を左側で表し、校運隆昌の象徴としての宝の一つです。



生徒棟の生徒玄関から二階に上がる際にある壁画は、「花」をイメージしたもので、岸先生が登校時の生徒の気持ちが落ち着くよう制作されたものです。また、生徒棟の一階から三階のコモンホールの東と西にある壁画は、本校の「下商魂」を中央部分に、右側は有事（戦時）下による停滯を断層として表し、戦後の野球部を始めとするスポーツによってつかんだ全国制覇等の栄光を月桂樹として、さらには、右端の絶は未来に躍進する本校の姿を表して制作されたものです。なお、その壁画の右側にある校歌の歌詞（一番から四番まで全部）を刻んだ揮毫者は、書道の田中宏先生のご尊父「田中江舟先生」によるものです。先生は、同時に完成した正門の校名も執筆されました。先日、他界されました。江舟先生によつて手がけられたのですが、「かなの江舟」として一世を風靡された有名な方によるものなのです。これらは後世に遺す貴重なものとして、愛知県の瀬戸で特注品として制作された本校の一つです。

生徒棟の生徒玄関から二階に上りかかることが本決まりとなり、生徒棟の二階東側は「校歌の一一番（未来に育める下関）」「太陽と重ねと天体」、西側は、「校歌の二番（未来に育める下関）」「太陽と溢れる光」、二階東側は、「校歌の三番（国を海外へ）」「ほとばしる光と才智」、二階西側は、「校歌の二番（武士道の魂磨く）」「堅面（潮）」、最後に一階の西側は、「校歌の四番（世の荒波に漕ぎ出でむ）」の四書（世の荒波に漕ぎ出でむ）で特注品として制作された本校の一つです。

内で「校舎改築委員会」が設置され、「改築についての陳情書」が提出されました。それを受けて改築についての正式な協議がなされ、具体的に建築に伴う予算がさる運びとなつたのです。

昭和五十六年四月には設計図が完成し、七月には旧校舎の解体作業が始まり、その際、本校南側のスタンドに仮設のプレハブ校舎を二棟建築され、當時の一・二学年の教室として使用されました。夏は暑く、冬は寒い校舎で新校舎が完成するまでの我慢で生徒も先生方も授業をしていたことを思い出します。十月には本格的な基礎工事が始まり、まずは教室（杭打ち）が完成し、次に管理棟と夢の校舎が完成したのです。当時は、いずれ全教室が冷暖房完備となりますと伺っていましたが、四半世紀後の平成十九年度に本当に実現することになりました。旧校舎の時代からすれば信じられない快適な環境で授業が受けられるようになつたと思

要が指摘され、早速改築準備にとりかかることが本決まりとなり、具体的に建築に伴う予算がさる運びとなつたのです。

昭和五十六年四月には設計図が完成し、七月には旧校舎の解体作業が始まり、その際、本校南側のスタンドに仮設のプレハブ校舎を二棟建築され、當時の一・二学年の教室として使用されました。夏は暑く、冬は寒い校舎で新校舎が完成するまでの我慢で生徒も先生方も授業をしていたことを思い出します。十月には本格的な基礎工事が始まり、まずは教室（杭打ち）が完成し、次に管理棟と夢の校舎が完成したのです。当時は、いずれ全教室が冷暖房完備となりますと伺っていましたが、四半世紀後の平成十九年度に本当に実現することになりました。旧校舎の時代からすれば信じられない快適な環境で授業が受けられるようになつたと思